

今夏秋決戦方針決定

第十二回支部代表者会議開催

第十一回支部代表者会議が、各支部長、代表者、営業協議会議長の参加を得、七月二七日動力車会館で行なわれた。

支部代では、本部よりこの間の選挙闘争、組織強化のとりくみ、物販運動の中間総括、団結地引き網大会などを中心とするとりくみの成果と最大の焦点をむかえた清算事業団闘争勝利、今秋ストライキを含む決戦を構築するための組織強化を打ちとることを中心に、当面、物販闘争の貫徹、「八・二一清算事業団闘争勝利」動労千葉総決起集会「九・一〇全国労組交流センター集会(東京)」第十六回動労千葉定期大会を中心としたとりくみの成功を勝ちとるべく総決起することを確認した。全組合員は以下の情勢と方針を確認し、職場討議を深め、秋の決戦に全力で決起しよう!

とりまき情勢

一、東京都議選、参議院選をとおして明らかとなり、この間の自民党の反動攻勢に対し、怒りがまさおこり、自民党の「戦後総決算路線」に対し大打撃を加え、流れが変わりつつあることは事実ではあるが、大勝した社会党が「連合政権構想」の下、大きく右よりになっっている現実がある。

二、本年十一月、総評と「連合」の統一大会が予定されており、官公労も含めた右翼労働「統一」の情勢が一つ大きく動こうとしているなかで動労千葉はあくまで労働者の生活と権利を守るために全国労組交流センターの発展を勝ちとるべく全力で闘う。

三、全国各地で国労勝利の地労委命令が出されているにもかかわらず、JR当局は全く無視し、むしろ攻撃を強めている。

しかしながら、JRの革マルと一体となつた不当労働行為、強権的労務支配優先の政策は確実に破産することは明らかだ。また、鉄道労連革マルは自民党大敗への危機感をまる出しにしている。六月に行なわれた労連大会では鉄労系を役員から排除し、ますます革マルが鉄道労連を牛耳る形となり鉄労系とのきしみ合いが強まり、鉄道労連そのものの組織体制自身が大きくゆらいでいる。

四、そうした情勢のなかでJR当局、鉄道労連革マルは、より一層の反動を強めるであろうが、そのこと自体敵の危機の現われである。われわれは、この間、「分割・民営化」体制粉砕のたたかいを全力

でたたかった経緯にふまえ、その最大の問題である清算事業団をめぐるたたかい、十二名の組合員を奪還するたたかいに勝利するため全力で決起しなければならない。「八・二一総決起集会」を突破口に年内にも地労委命令を勝ちとるためにたたかい、さらに最大の山場では今春闘を上回るストライキを打つ組織体制を勝ちとるために全力で決起しなければならない。

当面するとりくみ

(一) 夏・秋、年末へ向けた闘いの骨格

① 十一月・十二月決戦をむかえることが必至の清算事業団闘争に勝利し、十二名の原職奪還を勝ちとる。

② そのために、動労千葉に対する組織破壊攻撃があらゆる場面で開始されていることを見据え、ストライキも辞さず闘い抜ける組織体制の確立を

はかる。

③ 「九〇・三ダイ改」阻止! 反合・運転保安確立

④ 組織強化・拡大

⑤ 総評解散・右翼労働「統一」反対、全国労組交流センターの強化・拡大

具体的には、
① 八・二一清算事業団闘争勝利! 動労千葉総決起集会
② 九・一〇全国労働組合交流センター集会
③ 十・八・九第十六回定期大会
④ 十一月・十二月清算事業団決戦
を中心としたとりくみ

八月のとりくみ
① 夏季物販の貫徹
組合員一人一万五千元
② 八・二一動労千葉総決起集会

② 八・二三組合脱退強要地労委闘争

④ 八・五・六広島闘争青年部代表派遣